

学校法人 桑沢学園

2026年度 事業計画

I はじめに

本学園の創立者 桑澤洋子は、昭和初期から建築・室内設計・服飾等のデザインジャーナリズムの世界で活躍する中で、建築家グロピウスによって1919年にワイマールに設立された、造形芸術の総合学校「バウハウス」の存在を知り、大きな影響を受けた。

桑澤洋子は機能性や合理性を追求したデザイン活動をすすめる過程で、デザインの総合的な基礎教育と専門教育の重要性を強く実感し、教育機関の実現のために努力を重ね、1954年に各界気鋭の教育者、芸術家、デザイナーたちの協力を得て、当時としては画期的なデザインの専門学校「桑沢デザイン研究所」を設立した。さらに高度な造形教育を追求する場として1966年には「東京造形大学」を設立し、今日に至る。

学校法人桑沢学園 中期計画(Road to 2030:2026-2030)の初年度にあたる2026年度は、昨年度までの中期計画(Road to 2025)から踏襲した5つの中期計画施策を引き続き推進するとともに、新たに中期テーマとして掲げた「森の中の美大」及び「社会に開かれた創造発信地」を指針として、各部門において次の通り、事業を推進していく。

東京造形大学においては、「森の中の美大」構想の実現に向けて、キャンパス敷地内の森林を整備し教育の場として活用するための検討を進めるとともに、長期的なキャンパス整備計画を策定し、移転から30年が経過した建物・設備の老朽化対策を進めていく。あわせて、2027年度に実施する教育課程改編に伴い、教育課程とDPの整合性を体系化し、学生の能力修得状況を具体的に示せる教育体制を構築する。また、2026年は東京造形大学創立60周年の節目となることから、年間を通じて創立60周年記念事業を展開していく。

桑沢デザイン研究所においては、2025年9月に新設した別科「Kuwasawa Design Studio」を通じてのデザイン教育の展開、夜間部「デザイン専攻科」の教育プログラムの改編などの施策を、「社会に開かれた創造発信地」のテーマに沿って重点事業計画として推進していく。

法人部門においては、「社会に開かれた創造発信地」と連動して、渋谷新教育施設の1階及び地下部分を、様々なコンテンツを実験的に発信する拠点として整備を進めていく。また、両設置校の施策実行の基礎となる安定的な学校法人運営のために、1988年に整備された各種規程の点検と改正、経費精算システムの導入による業務効率化・改善などの計画を実行し、適正な学校法人運営を行っていく。

II 中期計画テーマ・施策

中期テーマ：「森の中の美大」（東京造形大学）

「社会に開かれた創造発信地」（専門学校桑沢デザイン研究所）

中期計画施策：

1. 【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践（＝教育）
2. 【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり（＝学生生活）
3. 【見える化】教育成果の社会発信と知識循環（＝広報）
4. 【やりガイ・働きガイ】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり（＝労務）
5. 【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理（＝リスク管理）

学校法人桑沢学園 中期計画(Road to 2030：2026-2030)の中期計画テーマ・施策に基づく
主な事業計画は以下のとおりとする。

III 中期計画テーマ・施策に基づく主な事業計画

東京造形大学

【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

- (1) 2027年度教育課程改編に伴い、教育課程とDPの整合性を体系化し、学生の能力修得状況を具体的に示せる教育体制を構築する。
- (2) 修士課程における新教育課程の具体的な検討を実施する。
- (3) 大学院 ZOKEI 賞について、専門性の評価を加味した選考方法や推薦制度のあり方について検討する。
- (4) 最新の機材・設備を導入し制作環境を強化するとともに、Adobe および Microsoft のライセンスを更新して全学年に最新のソフトウェア環境を提供することで、学習成果の向上と同ソフトの安定した使用環境の確保を図る。
- (5) 複数の教室でプロジェクターやスピーカー等の機器を更新するほか、展示用の仕切りや可動式パーテーションを教室に設置することで、安全で利便性の高い学習環境を整備する。
- (6) 共通工房の特色を紹介するとともに、技術職員による作品展示を実施し、工房の教育的役割を周知することで、学生の制作活動の一層の推進を図る。

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

- (1) キャンパス敷地内の森林を整備し教育の場として活用するとともに、遊歩道のルート計画と整備についての検討を進める。＜テーマ「森の中の美大」＞
- (2) 学生が心身ともに健やかな学生生活を送れるよう、スクール・コーディネーターの勤務日の拡充等による相談支援体制の強化や、学生の健康増進を目的とした各種企画を実施する。
- (3) 学生と企業との親和性を高めるとともに、就業後の姿が具体的にイメージできるよう、当該企業に在籍する卒業生の参加を基本とした企業説明会を実施する。

【見える化】教育成果の社会発信と知識循環

- (1) 「森の中の美大」構想の進捗について、大学案内、Web サイト、SNS 等の媒体を通じて、外部に対して積極的に発信する。＜テーマ「森の中の美大」＞
- (2) 東京造形大学創立 60 周年記念事業の各企画の実施予定と成果を Web サイト、SNS 等の媒体を通じて、外部に対して積極的に発信する。
- (3) オープンキャンパス開催日に、受験生や保護者に対して本学の概要や入試制度について、より理解を深めてもらうための説明会を開催する。
- (4) 通常授業が行われている祝日に、受験生や保護者に対して本学の教育環境や雰囲気を実際に体験してもらうためのキャンパス見学会を開催する。
- (5) 高校内ガイダンス、模擬授業・ワークショップ、学外での進学相談会、接続教育プログラムを通じて、デザイン・美術の魅力を伝えとともに、本学の教育成果を積極的に発信する。
- (6) 外部の大学情報ポータルサイトに本学の教育研究情報を掲載し、教育成果を社会に向けて広く発信する。
- (7) 教員の専門分野に基づく講義動画を配信し、受験生にデザイン・美術の学問分野を紹介することで、本学で行っている教育研究を広く発信する。

【やりがい・働きがい】多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

- (1) 東京造形大学、桑沢デザイン研究所及び法人部門の職員を主な構成員として 2021 年度に発足した「桑沢ワークシフトプロジェクト」において、これまでの検討・取組みを踏まえ、教職員がより意欲的に働けるよう、職場環境の一層の充実を目指して具体的な施策の検討を進め、順次実施していく。

【万が一のそなえ】社会変動に迅速に対応するリスク管理

- (1) 都市計画道路の敷設および将来的な建物修繕の必要性を踏まえて、専門家の意見を聴取しながら長期的なキャンパス整備計画を策定する。＜テーマ「森の中の美大」＞
- (2) 学内建物および設備の調査結果に基づき長期修繕計画を策定するとともに、空調、エレベーター、構内高圧電源ケーブル等を順次更新する。＜テーマ「森の中の美大」＞
- (3) インフラ環境の安定稼働および性能向上を図るために、有線・無線ネットワーク環境の経年劣化による故障リスクが高い部分の置き換えを行う。
- (4) 設備老朽化の対応として、附属美術館内の空調設備の改修工事、7号館地下フォトスタジオのストロボ設備等のリニューアルを実施する。

専門学校桑沢デザイン研究所

【埋蔵資源発掘】表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

- (1) 夜間部専攻デザイン科に桑沢デザイン研究所の原点と新しい時代に求められるスキルセットを融合した「エクスペリエンスデザイン専攻」を新設するための準備を進める。＜テーマ「社会に開かれた創造発信地」＞
- (2) 昼間部総合デザイン科の原点に立ち返り、デザイン領域間の連携を促進する取り組みを行う。
- (3) 「Kuwasawa Design Studio」の新設をとおして、創設以来の教育経験を活かしながら、社会に開かれた多様なデザイン教育を提供する。＜テーマ「社会に開かれた創造発信地」＞

【森林公園計画】対話が生まれる自由闊達な空間づくり

- (1) 渋谷新教育施設(2号館)を活用し、学生と社会をつなぐ新たな取り組みを展開する。＜テーマ「社会に開かれた創造発信地」＞
- (2) 現代に即したデザイン教育・学修環境に必要な施設設備を整えるため、新たな修繕計画を策定する。

【見える化】教育成果の社会発信と知識循環

- (1) 「卒業生作品展」をはじめとする展示や企業・行政など学外との連携を通して教育成果の情報を積極的に発信していく。

【やりがい・働きがい】 多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

- (1) 桑沢デザイン研究所、東京造形大学及び法人部門の職員を主な構成員として 2021 年度に発足した「桑沢ワークシフトプロジェクト」において、これまでの検討・取組みを踏まえ、教職員がより意欲的に働けるよう、職場環境の一層の充実を目指して具体的な施策の検討を進め、順次実施していく。
- (2) 組織を跨いだ相互理解や新しい情報技術の導入により、既存業務の効率化と新規業務への挑戦を促進し、生産性の向上に取り組む。

【万が一のそなえ】 社会変動に迅速に対応するリスク管理

- (1) 18 歳人口減少に伴う経営状態の変動に備え、経営安定化に向けた支出構成比の見直しを検討する。

学校法人桑沢学園

【埋蔵資源発掘】 表現を通じて私と他者を発見する造形教育の実践

- (1) 渋谷新教育施設について、これまでの運用を踏まえ、専門学校桑沢デザイン研究所の教育を継続的に実施するとともに、利便性を向上させ、引き続き様々なコンテンツを実験的に発信する拠点としていく。＜テーマ「社会に開かれた創造発信地」＞

【やりがい・働きがい】 多様な価値観を基盤にした仕事環境づくり

- (1) 両設置校及び法人部門の職員を主な構成員として 2021 年度に発足した「桑沢ワークシフトプロジェクト」において、これまでの検討・取組みを踏まえ、教職員がより意欲的に働けるよう、職場環境の一層の充実を目指して具体的な施策の検討を進め、順次実施していく。
- (2) 予算管理・調達申請システム（内製システム）が運用開始から 10 年以上経過し、仕様上の制約を運用面で補完している状況を踏まえ、両設置校及び法人部門による横断的なプロジェクト体制の下、現行の業務フローに適した経理処理関連の新システムの円滑な導入に向けた具体的な準備を進める。

【万が一のそなえ】 社会変動に迅速に対応するリスク管理

- (1) 2025 年度に私立学校法の改正にあわせて寄附行為や各種規程を改正し、役員及び評

議員等の役割及び構成を見直したが、引き続き学園運営に関する一部の制度について必要な見直しを行い、より適正な体制で運用していく。

- (2) 本学園がこれまで行ってきた債券中心の資産運用の見直しを図るため、2022年度末から3年間にわたり実施してきた様々な投資対象による実験的な資産運用の検証結果を踏まえ、新たな資産運用方針を策定し、導入に向けた準備を進めていく。
- (3) 両設置校の施策実行の基礎となる安定的な学校法人運営のため、1988年に整備され、その後改正を重ねてきた各種規程について点検を行い、規程間の整合を図るとともに、必要に応じた改廃を行う。
- (4) 社会行動規範強化の仕組みづくりとして、大学・研究所で生じている各種の課題を学園内で共有すると同時に、法務課が軸となり、ルールやプロセスの見直し・改善による課題解決のための対策を両設置校の関連委員会と協力して進める。

以上